

■□要旨■□

1. 新しいことをやらないと企業と国は亡ぶ

創業社長や変な人は、新しいことを産み出すことはできるが、真面目な役員はだめ。肩書からや軍隊組織からは新しいものは産まれない。

2. 挑戦

挑戦しないと新しいものは産まれない。そこには本質論とコンセプトが存在する。受験勉強では、How toしか教えないため、そこには本質論が存在しない。本田宗一郎の原点は挑戦であり、そこには本質的な哲学が存在した。

3. Innovationには論理がない。

Innovationは、ユニークな本質発掘から産まれるものであり、論理から産まれるものではない。本質的な哲学を得るためには、高質な原体験が必要あり、そのためには、一流のものを見て、沢山人と話し、いろんな物を食べることが必要。(歌舞伎座や近代美術館に行く。一流の人と付き合うなど)

4. Innovationの掟

40歳を越えると、経験と知識が邪魔をするので、若い人に本質を問う必要あり。そして、答え型と目を見てそれを判断するしかない。その型は、本質・コンセプトであり、それが良いとInnovationの成功確率が高くなる。

5. 10人の内、9人が賛成したらToo late

多数決や・合議制からは新しいものは産まれない。革新的な企画は一人で決めるもの。そして継続することが必要。(但し、それを支えてくれる上司は必要)

6. コンセプトの作り方

現場を見て、ワイガヤ(異質な人との本質議論)、試す・やってみることから創られる。

7. 革新的なリーダーとは

若者を鼓舞し、大きく期待し、自ら熟慮させ、厳しく育てること。言い換えると、文化創りをし、価値コンセプトを重視し、厳しさを与えつつ、長時間待つことが出来ることである。

■□今回の学び ひとことという■□

新しいことを産み出す(Innovation)ためには、論理では出来ない。若い人が自由な発想ができる環境を与え、その発想を、目とその話し型で判断する。そのためには厳しく接しながらも、長い時間待つことが重要であると、深く理解できた。もう40歳を過ぎた私としては、新しいことを産み出すことそのものよりも、それが出来る環境を作ることに注力するべきであると感じた。



■□感想■□70歳を過ぎていらっしゃると思うのですが、とてもそうは見えない元気でバイタリティーあふれる方です。エアバックを産み出したその経験、そしてそこに至るまでの苦労や、またそれを理解してくれた本田社長・久米社長との関係など、通常ではなかなか味わえない経験が、お話しに説得力と面白さを産み出しているように感じました。